

栄寿会関東支部 会員各位

関東支部 平成27年度 文化・食彩合同同好会による
「伝統文化狂言への誘い」と「素敵なレストランでのランチ」のご案内

栄寿会関東支部
支部長 毛利 雅一

本年は「伝統文化 狂言への誘い」と「素敵なレストランでのランチ」の集いを計画しました。横浜の JR 桜木町駅北口から歩いて 10 分くらいに、創建 145 年になる「伊勢山皇大神宮」があり、そのそばに横浜が誇る「横浜能楽堂」があります。今回は、狂言師「野村万作」1990 年紫綬褒章受章、2007 年人間国宝の「狂言」を観賞できることになりました。「野村万作」人間国宝を通じ日本の伝統芸能を知る良い機会と思っています。伊勢山皇大神宮に参拝し、伊勢山ヒルズ内マンジャールで素敵なイタリアンランチの後、横浜能楽堂で「野村万作」人間国宝の狂言を観賞し知識を深めましょう。ご夫人お誘いの上、奮ってご参加いただきますようお願い申し上げます。

記

- 開催日時：平成27年7月12日（日）10：00－16：00
- 集合場所：JR 根岸線「桜木町駅」北口（10：00 集合）〈時間厳守〉
（JR 京浜東北線「桜木町駅」、横浜市営地下鉄「桜木町駅」から3分）
- 会費：4,500円（指定席入場券、伊勢山ヒルズ内レストランランチ、傷害保険料込）
- 徒歩移動：JR 桜木町駅北口→伊勢山皇大神宮参拝→伊勢山ヒルズ→横浜能楽堂
- 食事処：「レストランテ マンジャール」（結婚式場 伊勢山ヒルズ内）045-260-8845
11：00～12：40

*食事メニュー「肉」か「魚」のいずれかをお選び下さい。

- 開場：13：00 開演 14：00
- 演目 1. お話 石田 幸雄
2. 狂言「宝の槌」（和泉流 深田 博治）
3. 狂言「宗八」（和泉流 野村 万作）人間国宝

能・狂言・演目について
次ページに参考掲載
しましたので、お楽しみく
ださい。

上演時間中での途中入退場は不可です。

- 申込み後の“キャンセル”はできませんのでよろしくお願いいたします。

⇒ 参加者は 出欠の「有無」と 食事「肉か魚」の連絡をお願いします

5月10日（日）までに 事務局 高橋 正 へ

メール：takeful333@kzd.biglobe.ne.jp FAX：045-544-7958

申込み期限日 **厳守** でお願ひします。（予約の為に必要です）

- 当日連絡先 090-1605-1539（上月）、090-2445-2967（本多）、070-5459-9444（長谷川）
090-3094-4377（高橋）

【資料】

能と狂言は、切っても切り離せない関係にある芸能で、二つを合わせて「能楽(のうがく)」といいます。

能は600年の歴史がある日本最古の歌舞劇です。時代とともに少しずつ変化し、今のような姿になったのは江戸時代<1603-1867>中期。将軍や大名をはじめとする武士たちによって磨き抜かれた能は、武家の精神と美意識の結晶といえます。

能は、ミュージカルと同じように音楽やダンスが入ることから“日本のミュージカル”ともいわれます。音楽の中で、演奏は「囃子(はやし)」、歌は「謡(うたい)」と呼ばれ、西洋音楽とはまったく違う形式です。ダンスは「舞(まい)」と呼ばれ、足を床から離さずに平行移動する足運びを基本とし、動きも抑え気味で静かです。もう一つ、ミュージカルと大きく異なるのは、基本的に、男性による仮面劇であるという点です。

また能と歌舞伎は混同されることもありますが、実際には対極の芸能とっていい。歌舞伎が、時代とともに変化し続ける“永遠に未完成の芸能”であるのに対し、能は一度肉づけしたさまざまな要素が極限まで削ぎ落とされたことによってできあがった“完成された芸能”です。

能は日本を代表する芸能で、文楽(ぶんらく)、歌舞伎、沖縄の組踊(くみおどり)など、その後の芸能に大きな影響を与えています。

狂言は、能と同じく能舞台で演じられる喜劇性の強い芸能です。喜劇的な部分だけが強調されがちですが、笑いの中に人間の喜怒哀楽すべてを包み込んでいます。セリフ劇でありながら、能と同じように歌舞の要素も散りばめられています。幅も奥行きもある、芸術性の高い芸能です。

能と狂言は、古くは一つの芸能でしたが、室町時代<1336-1573>に歌舞を中心とした能とセリフ劇である狂言に分かれました。狂言が今のような姿になったのは江戸時代中期。能とともに、大名を中心とした武家の好みに合わせ、芸術性の高い芸能として完成しました。

狂言は能に比べると初心者にもわかりやすい。能の上演時間が1曲1時間以上なのに対して、狂言は20~30分のもものが多く、気軽に楽しめます。そのため、最近では狂言だけの公演も多い。

能・狂言は「能楽」として、2001年にユネスコによる第一回の「人類の口承及び無形遺産の傑作(世界無形遺産)」に、日本の芸能で最初に宣言されました。そして2008年には「人類の無形文化遺産の代表的な一覧表」に、人形浄瑠璃文楽、歌舞伎とともに登録されました。

横浜能楽堂は、独自の切り口で、能・狂言の上演を行っています。

特別企画公演「武家の狂言 町衆の狂言」(2009年)では、同じ大蔵流であるにもかかわらず、狂言の世界で対極的な芸風で知られる山本家(東京)と茂山家(京都)の狂言を一味違った趣向で見比べる公演を実施。

桃山時代の能の姿を学術的な考証に基づいて蘇らせた「秀吉が見た『卒都婆小町』」（2002年）、ワキに焦点を当てた6回シリーズ「ワキとシテ」（2004年）、150年前に海外に流出した能装束を復元し能を上演した「海を渡った能装束」（2009年）など話題の企画を次々と生み出しています。

演目概説

1. 宝の槌

狂言の曲名。脇(わき)狂言・太郎冠者(かじや)物。主人に命じられて都に宝物を買いにきた太郎冠者(シテ)を、すっぱ(詐欺師(さぎし))が呼び止め、太鼓の古撥(こぼち)を打出(うちで)の小槌(こづち)と偽って差し出す。教えられた呪文(じゅもん)を唱え、「カッターリ、カッターリ」と撥を振ったところ、すっぱの投げた脇差(わきざし)が両脚の間から飛び出してきたので、冠者はすっかり信用してしまい、その古撥を高値で買って持ち帰る。ところが、主人の所望する馬を打ち出そうとしてもいっこうに出てこない。苦しい言い逃れも底をついた冠者が、「カッターリ、カッターリ」とご普請の音がするのはご立身の前兆でめでたいことだというと、主人も冠者を許し、和やかに終わる。『末広がり』系統の祝言色の濃い曲であるが、言い逃れに苦心する太郎冠者のユーモラスな演技も見どころである。
[池田英悟]

2. そうはち 【惣八・宗八】

狂言。もと料理人の俄《にわか》坊主と、還俗《げんぞく》したての惣八という料理人が、それぞれ主人から仕事を命じられる。二人は慣れないのでこずるが、互いに前身をうちあけ、仕事を取り替えているところへ、主人が戻ってきてあわてる。